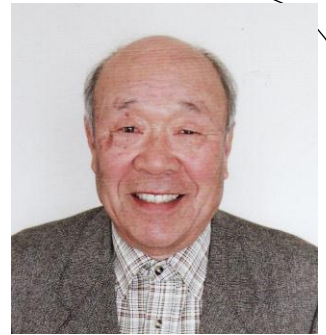




この度、喜寿の祝に生花をいただき、ありがとうございました。私も今のところ元気ですので、地域の為に少しでも役立つよう努力しております。その他、ゲートボール、旅行、野菜作りをして、楽しんでおります。皆様、健康は宝ですから。

平成23年2月吉日 田部井 元保



田部井元保さん

この度は喜寿のお祝を戴き心より感謝申し上げます。定年退職後は、町の体協の理事や村の社寺総代、農事支部長等も務めたりしました。又退職時に決意表明したとおり、スキー、マスターズの全国大会に連続出場したり、県連の指導員の競技大会は一昨年迄頑張つて来ましたが、体調を悪くした事と妻も体調不良の病弱となったことを機にリタイアしました。現在はグラウンドゴルフや子供達への安全パトロールを実施しています。又野菜作りや田畑の保全管理等の作業する為に今後は無理をせず健康に注意して行きたいと思ひます。

平成23年2月吉日 岩瀬 求馬

<訂正> 前号の「祝喜寿」で名前に誤りがありました。お詫びして訂正させていただきます。

「誤」 小倉 文夫 → 「正」 小暮 文夫

【 会員投稿 】

九十九里雑感

川柳創馱郎

古い話を持ち出して申訳ございません。秋の親睦旅行「九十九里・白子温泉の旅」を聞き、ひょいと過(よぎ)ることがありましたので書きたいと思ひペンを執りました。

「利根の川風エ〜 袂(たもと)に入れてエ〜 月に棹さす高瀬舟エ〜 利根の7月大利根月夜ヨオ〜 **佐原**囃子(ばやし)の音もさえ渡りヤア〜 飛ぶや蜚のここかしこオ〜 わたしヤア〜 **九十九里**イ〜 荒浜育ちヨ〜 と言うてエ〜 鯛のオ〜 子ではないイ〜」。御存知浪曲玉川勝太郎の「天保水滸伝」です。

天保水滸伝

笹川繁蔵(1810〜1847)→江戸後期の博徒。下総(しもうさ)国香取郡で醸造業を営む岩瀬家に生まれ、長じて利根川沿岸の大親分となる。平手造酒を助っ人として飯岡の助五郎との縄張り争い(大利根河原の決闘)を行い、のちに助五郎に暗殺された。浪曲天保水滸伝に登場した。

余談→ 醸造業が、酒、醤油・味噌どれを造っていたかわかりませんが、助っ人の平手造酒の名前が、酒を造るとなります。因果でしょうか。

利根川河口(銚子市)を遡り香取郡東庄町に笹川という地名は見受けられるが、繁蔵に繋がる痕跡見つからず。東庄(とうのしょう)町→千葉県北東部、香取郡の町。利根川南岸の低地と下総台地にまたがる。中心の笹川は近世の利根川水運の河港であった。

一方の飯岡助五郎(1792〜1859)→江戸後期の侠客。相模(神奈川県)生まれ。本姓石渡。下総飯岡に移り網元となる。また博徒、岡っ引として活動。笹川繁蔵と争う。飯岡→2005年7月に旭市に編入される。刑部岬の近くに助五郎の墓があります。

九十九里浜→千葉県太東崎(たいとうさき)から刑部(ぎょうぶ)岬までの太平洋に面する砂浜海岸。長さ約60km、沿岸は黒潮と親潮の出合う所で魚類があつまる。太東崎は白子温泉から南へ14kmにあり、刑部岬は犬吠岬から西へ12kmにあり。

佐原(さわら)市→伊能忠敬(いのうただたか)(1745〜1818)江戸後期の地理学者。日本全図の製作者、下総佐原の伊能氏の養子だそうです。犬吠崎から利根川を遡って約18km利根川ぞいに佐原市があり利根川を渡れば霞ヶ浦があります。市内には忠敬の銅像や記念館があります。 <次号につづく>

<ご案内> 太田でテニスしよう会 5月21日(土) 11:00〜15:00 小雨決行

場所 サンプラザ 太田 太田市鳥山上2282 (0276-37-6868)

連絡先 福田興司 (0276-62-3612 fukudako3@ybb.ne.jp) 4/30まで

【 会員投稿 】

九十九里雑感 <前号よりつづく>

川柳創馱郎

話しは飛びますが、上州赤城山麓を東西に上毛電鉄(桐生―中央前橋)と言う鉄道が走っています。桐生駅を西に向い7つ目の駅でしょうか、きたはらという駅を降り北へ1km程に大前田という地名があり、大前田英五郎の墓があります。

大前田英五郎(1793～1874)→上州勢多郡大前田村の名主の子として生まれたが、博徒となり人を殺して逃走。諸国を転々としたが関東取締出後に捕えられて佐渡へ流された。のち島破りをして郷里に帰り目明しを勤める。

伊勢崎市国定町に養寿寺という寺があり国定忠治の菩提寺で墓もあり、ギャンブルの勝にあやかろうと墓石の角は削られて持ち去られ墓石は二代目等と読売新聞朝刊(11月7日付)に載っていた。

国定忠治(1810～1850)→江戸後期の侠客。上州国定村生れ。本名、長岡忠次郎。17歳で人をあやめ、上州博徒の大親分、大前田英五郎の下へ逃げ込み、希代のアウトロー人生が始まる。博奕(ばくち)渡世で罪を重ね、磔刑(たっけい)、磔(はりつけ)。上州長脇差の典型的な人物として浪曲、映画などに脚色。11月7日付の記事をもとに書いていたら、同じく11月23日付で……プラスおまけかな? 「やくざ者? 民衆を救った英雄? 分かれる評価」。観光関係者や郷土史家からは街おこしにつながる。市長は「忠治は歴史的に評価が分かっている。民間がやるなら歓迎だが税金を使うのは難しい」。又忠治をあしらった案内板を見た市民から「伊勢崎はやくざの街か」と苦情もあった。市長の難色の結果「生誕200年イベント中止」などの記事。

博徒(ばくと)とか侠客(きょうかく)と出て来ましたが、博徒は「ばくちうち」であり、侠客は「強きをくじき弱きを助けることをたてまえとする人」。どちらもやくざ渡世人であるが微妙に違うようです。

侠客の第一人者といえば、清水次郎長でしょう。海道一の大親分といわれ、浪曲師二代目広沢虎造によって全国に広められた。清水次郎長(1820～1893)詳細は又の機会に。

中央(江戸)では、ペリーが1854年幕府に開国をせまり(日米和親条約)の締結に成功。坂本龍馬(1835～1867)が江戸に出て千葉周作の弟に学ぶ。1860年3月3日の朝、大老井伊直弼の暗殺事件(桜田門外の変)。桜田門外の変は水戸市民の立ち上がりで映画化されヒットしている様です。

こんな時代の人達を天保水滸伝の繋がりを書いてみました。

各人物の生没年が書いてありますが、同年代の係り合いと最近の問題になった死亡(戸籍上は生存)しているのに年金を受けていたとか、100歳以上の人を調べた結果全国で多くの件数があったとか、その中で国定忠治(1810年生)と同年者がいたそうで、これこそ生誕200年です。笑って良いものか悪いものかわかりません。文中、浪曲という言葉が出て来ますが、天保水滸伝、国定忠治、清水次郎長等は昭和30年代の浪曲で一世を風靡した娯楽だった。

時は流れ、東京オリンピック(昭和39年)を境にテレビの普及もあり浪曲がすたれ歌謡曲がテレビから流れる時代と変化した。

村田英雄、三波春夫は浪曲界から歌謡界に移り成功しました。旅行も昔は宿に着けばマージャン、宴会後もマージャン三昧という時代もその後歌がはやりだして庶民もカラオケで歌う時代になり、旅行も今では宴会、二次会とカラオケということになります。

川柳も退職後菱の実カラオケ会に参加して先輩のご指導のもとに歌っています。「うなりすぎ」「力を抜いて」など始めはマイクの持ち方もいわれた記憶があります。足掛け7年上達は如何に。

「川柳の歌」・ととのいました。「川柳の歌」とかけまして、「犬吠崎」と解きます。その心は―― 銚子のはずれです。(調子はずれ)

カラオケも しょせん自分の 応援歌 (オオ演歌)

<おわり>

- 今月の『細野水彩画廊』：「イギリス・コッツウォルズ地方バイブリー村」(菱の実会ホームページでご覧下さい)「細野スケッチ」は、本格的水彩画へのレベルアップに伴い「細野水彩画廊」へタイトルを変更しました。